

アースデイとやま 2023 特別ワークショップ



「本当に持続可能であるために」

SDGsが唱えられて以来、「持続可能」という言葉が社会に満ちあふれるようになりました。でも、その中には単に流行に乗っただけのようなものもあるのではないのでしょうか。この世界が本当に持続可能であるとはどういうことで、何が必要なのかを、みんなで一緒に考えましょう。

5月27日（土） 13:00 開場

富山大学五福キャンパス 理学部多目的ホール

富山地方鉄道・市内電車 富山大学前行きに乗車 富山大学前で下車 徒歩 10分

※裏面にキャンパスマップがあります。

※駐車場はございません。お越しになる際は、公共交通でお越しください。

基調講演

13:30 ~ 14:30

脱炭素社会実現に向けての 技術と社会と経済を巡る具体的諸問題

ー 国際海運ゼロエミッション化を実例として ー

国立研究開発法人 海洋研究開発機構 理事長
東京大学名誉教授

大和 裕幸先生



※基調講演の要旨と先生のプロフィールは、裏面をご覧ください。

ワークショップ

14:30 ~ 15:30

参加者の皆さんにそれぞれのグループで感想や意見を交換してもらい、大和先生への質問を取りまとめます。グループ・ディスカッションの後、各グループの代表者による発表と質問が行われます。最後に、大和先生が質問への回答と総括を行います。

主催 アースデイとやま 2023 実行委員会

共催 富山大学理学部野生動物保全学研究室、都市デザイン学部ネオテクニクス研究室

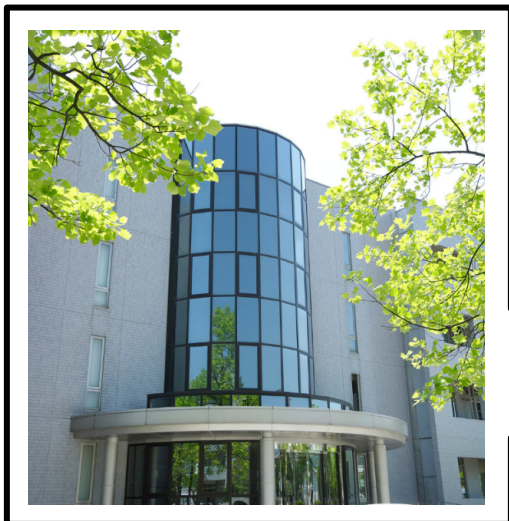
お問い合わせ 076 - 445 - 6376（実行委員会委員長 横畑 泰志）

大和 裕幸先生 基調講演要旨

いずれの産業分野においても脱炭素化のための努力がなされている。国際海運においても2050年までのゼロエミッション化を目指しているが、GHG（温室効果ガス）削減基準に国際的な合意が必要であること、船舶の機関や燃料技術が未確定であること、またステークホルダーも燃料会社や規制機関など、これまでになく多様である事などから、技術的社会的経済的に大変に難しい問題である。これまでの経済原則とは異なり、GHGは減少するものの、運賃の上昇やサービスの低下などで国民生活にも多大の影響を及ぼす取組が国民に理解され、合意を得て実行されるにはどうすればよいかを考えなくてはならない。本講演では数値シミュレーション等によって国際海運ゼロエミ化の具体像を示し、問題点を論じたい。

大和 裕幸先生 プロフィール

- 昭和 29 年 5 月 東京生まれ
- 昭和 57 年 3 月 東京大学大学院工学系研究科博士課程修了 工学博士
- 昭和 57 年 4 月 科学技術庁航空宇宙技術研究所研究官
- 平成 9 年 7 月 東京大学大学院工学系研究科教授
- 平成 25 年 4 月 同 理事・副学長
- 平成 28 年 4 月 国立研究開発法人海上・港湾・航空技術研究所理事長
- 令和 2 年 10 月 一般財団法人次世代環境船舶開発センター代表理事
- 令和 4 年 4 月 国立研究開発法人海洋研究開発機構理事長



理学部正面玄関

会場（多目的ホール）

多目的ホールに直接入ることはできません。
理学部正面玄関からお入りください。

